



香川の 土地改良

発行所

香川県土地改良事業団体連合会
高松市番町五丁目1番29号

TEL (087) 832-7140

FAX (087) 832-7150

<http://www.midorinet-kagawa.or.jp/>



中山ひまわり団地（まんのう町）

目次

- 1. 本会令和3年度第1回監事会／本会第190回理事会開催2
- 2. 香川県農道整備事業連絡会開催3
- 3. 香川県管理運営体制強化委員会管理専門指導員会開催3
- 4. 多面的機能支払交付金事業を活用
～地域ボランティアの輪を広げる～4
- 5. 讃岐高松城の落城5～7
- 6. 会と催し／令和3年度土地改良換地士資格試験のご案内8

本会令和3年度第1回監事会開催

7月8日、香川県土地改良事業団体連合会会議室において、本会の令和3年度第1回監事会を開催した。

3月の総会で補欠選任された志村監事を含め監事全員の出席のもと森川代表監事が議長となり下記議案について審議が行われ、いずれも監事全員の賛成を得て承認された。

なお、令和2年度決算監査、令和3年度中間監査では、事業運営、業務計画及び執行状況、会計処理等について正確かつ適正に処理されているとの講評があった。

また、監査結果は、定款に基づき、理事会及び総会に報告される。



監事会の様子

議案

- (1) 監事の順位について
- (2) 令和2年度決算監査及び令和3年度中間監査実施計画について
- (3) 令和2年度事業報告及び一般会計、特別会計収支決算並びに財産目録の承認について
- (4) 令和3年度予算執行状況及び財務状況報告について
- (5) 令和3年度一般会計、特別会計収支補正予算について

本会第190回理事会開催



理事会の様子

7月20日、高松商工会議所において、本会第190回理事会を開催した。理事会には来賓として、香川県農政水産部より新池伸司部長、井川一郎次長、中村正樹農村整備課長の出席を頂いた。

冒頭、大山会長は、7月開催予定であった農業農村整備の集いが新型コロナウイルスの影響で中止となったことを報告し、手法を変えて要望活動を行う所

存であると言及。また、ため池や用水路での事故防止に向けた本会の取組や防災重点農業用ため池説明会の実施状況、土地改良区の複式簿記導入支援等について報告し、業務遂行のためご理解・ご協力をお願いしたい旨の挨拶を述べた。

続いて、新池農政水産部長からの来賓挨拶の後、大山会長が議長となり、下記の4議案が審議され、いずれも原案どおり承認された。



来賓挨拶をされる新池農政水産部長

議案

- (1) 令和2年度事業報告及び一般会計、特別会計収支決算並びに財産目録の承認について
- (2) 香川県管理運営体制強化委員会設置規程の一部改正について
- (3) 香川県受益農地管理強化委員会設置規程の一部改正について
- (4) 令和3年度一般会計、特別会計収支補正予算について

香川県農道整備事業連絡会開催

7月12日、香川用水記念会館多目的室において令和3年度香川県農道整備事業連絡会を県、市町担当者の出席を頂き開催した。本連絡会は、農道整備の一層の推進等を図るため、農道の適切な管理運営を図るとともに、事業の計画的な実施に関し総合的な調整を行うことを目的としている。

冒頭、本会の野瀬常務理事から開会の挨拶があり、続いて、香川県農政水産部農村整備課の中村課長より、農道整備事業の推進及び保安全管理に対して理解と協力をお願いしたいと挨拶があった。

その後協議事項に移り、下記事項について協議した。

- 協議事項 ・農道台帳の作成・管理について
- ・農道整備事業について
- ・水土里情報システムによる農道台帳の管理について



農道整備事業連絡会の様子

香川県管理運営体制強化委員会管理専門指導員会開催

7月26日、香川県土地改良事業団体連合会会議室において、香川県管理運営体制強化委員会管理専門指導員会を開催した。来賓に香川県農政水産部の井川次長を迎え、各土地改良事務所長をはじめ、本年度新しく委嘱された専門指導員の出席のもと、下記事項について協議した。

このうち、本年度の定期診断は、揚水機13、排水機5、樋（水）門11、頭首工32、ため池42、水路8の施設合計111施設で実施することとし、本年度の適正化事業実施計画等を確認した。



管理専門指導員会の様子

報告事項

- (1) 土地改良区体制強化事業実施要綱、要領の一部改正について
- (2) 香川県管理運営体制強化委員会設置規程の一部改正について
- (3) 令和3年度土地改良区体制強化事業（施設・財務管理強化）実施計画について

協議事項

- (1) 令和3年度香川県管理運営体制強化事業、施設の診断・管理指導・相談等運営計画について
- (2) 令和3年度土地改良施設維持管理適正化事業実施計画について
- (3) 令和4年度以降、定期診断対象施設の基準及び定期診断施設の見直しについて
- (4) その他

多面的機能支払交付金事業を活用 ～地域ボランティアの輪を広げる～

多面的機能支払交付金事業に取り組む船岡池活動組織が6月2日、池の東堤防に年間活動計画の一つである芝桜の植栽を行った。計画していた3日の天気予報が雨となったため、急遽日程を変更して、前日に実施した。いつもは多くの組合員の参加により活動を行っているが、急な日程変更のため、小比賀代表（舟岡池土地改良区理事長）外5名の役員等で作業を行った。

堤防の土に腐葉土を入れて、30センチ間隔で芝桜を手際よく植栽していた時、近所に住んでいる婦人が、声をかけてきた。



芝桜の植栽活動



池の渚を利用した花壇

小比賀代表の話によると、近所に住んで

いる花の大好きなボランティアの方で、これまでも活動組織が植栽した後、草抜きや花の手入れなど、お世話をいただいている方だそう。堤防の入り口の花壇や堤防には、この時期は紫陽花が見事な花を咲かせている。

前述の芝桜の植栽後の水やりも、近所の組合員さんが、来春に堤防一面に咲くピンクの花を今から楽しみに、自宅の地下水を提供されていた。また、今回芝桜を植栽した北側も新船岡池同好会のボランティアの皆さんが堤防周辺の維持管理に協

力を頂き、さらに、西側の堤防では、大野校区コミュニティセンターの皆さんのご協力により、スイセンの植栽活動にも積極的に参加を頂いている。

小比賀代表は、活動組織が小まめに綺麗に管理していれば、地域の人達もごみを捨てないし、落ちていたら拾って堤防周辺の美化に協力頂いていることに、感謝されていた。

また、役員には理事会等で勉強する場を設けて、土地改良法の改正や土地改良事業に税金が使われていることを理解してもらい、ため池などの土地改良施設の大切さを地域の人に知ってもらう努力を行っている。

今後は、池のアオコ対策や東屋等の景観整備など、土地改良事業として取り組める事業があればありがたい旨の話を頂いた。



北側の遊歩道



讃岐高松城の落城

「四国作家」同人 平井 忠志

江戸時代の香川の農業情勢

この頃讃岐では、しばしば水害や干ばつが農民を苦しめていた。空海が修築した満濃池は、過去から何度も決壊を繰り返してきた歴史がある。特に、源平合戦のころ（1184年（元暦元年））決壊した後、約450年間、江戸時代まで放置されていた。当時、讃岐一国を治めていた生駒藩は、伊勢から水利や土木（治水や利水）に精通した技術者の西嶋八兵衛を招聘し、1628年（寛永五年）、約450年間廃池されていた満濃池の再築に着手し、修築された。しかしながら、幕末の1854（安政元年）満濃池が再度決壊し、その後16年間、廃池となり、その後も水害や干ばつが繰り返され、1867年（慶応三年）再び干ばつに見舞われ、満濃池の早期復旧が望まれたその頃の物語である。

高松藩家老の妻

今年の正月は気味悪いほど暖かかった。高松城の東、屋島の上空は雲一つない青空が広がっていた。

高松藩家老小河又右衛門の妻種（たね）は、女中に命じて屠蘇（とそ）の支度をさせ、戦場にある夫又右衛門の陰膳に勝栗を供えさせた。戦場の様子は、高松城まではなかなか伝わらなかった。それだけに種の気苦労は絶えなかった。

砲撃合戦

そのころ家老の小河又右衛門は、もう一人の家老小夫兵庫と共に、幕府軍の関門鳥羽伏見に陣を構えていた。対するは薩摩・長州の連合軍である。慶応四年（明治元年）正月三日、戦火が走った。このとき幕府軍は薩摩連合軍の三倍の戦力であった。

高松藩の敗退

両軍大砲隊の砲撃合戦はすさまじかった。利は幕府軍にありと思われたが、薩長軍の大砲は確実な狙いで幕府軍を打ち破った。薩長軍はこの機を逃さず。朝廷から幕府追討の宣旨受け、官軍として錦の御旗を押し立てて進撃した。高松藩の両家老は賊軍の汚名を着せられ、抗するすべもなく全軍高松城に逃げ帰った。

敗軍の将

疲れ切った無残な姿で次々と城門に入る兵士たちの姿を見て、種は胸がふさがれた。「されば夫は、敗軍の将というところか」家老小河又右衛門の妻種は、白鉢巻に薙刀姿で敗戦の夫を出迎えた。取りあえずお茶漬けを用意させたところ、「酒じゃ、酒を持って」種が酌をする手を払いのけ、「敗けた、敗けた」と言いながら徳利の酒を茶碗につぎ、がぶがぶと飲んだ。

「幕府が負けるなど、信じられませぬ。一体どうなったのですか」たたみ掛けるように気忙しく問いかける種に、「負けは負けじゃ。敗軍の将、兵を語らず。城に籠って一戦するか、或いは城を明け渡すか、いずれにしても俺の命脈は尽きる。お前とも今宵限りじゃ。覚悟しておけ」

徹夜の協議

その日から高松城では藩主の前に主だった将が集まり、夜を徹して協議が続けられた。籠城して官軍を迎え撃ち、城を枕に討ち死にしようという主戦派と、この際恭順の意を表して城を明け渡そうという二派に分裂した。

高松藩追討令

このとき小姓頭が藩主頼聡に一通の書類を渡した。頼聡はだまってその書類に目を通した。それは密かに入手した、高松藩追討令の写しであった。

『高松藩は天朝を軽んじ、官軍に敵対し候段、不届き至極。よって征討軍を差し向け候……(攻略)』

薩長土佐の連合軍

とたんに頼聡の顔が蒼白になった。将軍徳川慶喜に従い最後尾から従軍し、鳥羽伏見で戦闘に巻き込まただけである。まだこの時は、どちらが官軍か賊軍かも決まっていなかったのではないか。官軍と言うが、実質は薩摩、長州、土佐の連合軍ではないか。

『勝てば官軍、敗ければ賊軍』ただそれだけの話ではないか。徳川幕府の政府軍と、朝廷軍の戦いではないか。藩主頼聡は納得できなかった。

一方、種のところへは逐一協議の情報が入っていた。主戦論者は、「藩の船に大砲を積んで、笠井郷の柴山沖で官軍の船団を撃破せよ」と主張する。降伏論者は「藩主頼聡公は城外に出て謹慎、小河、小夫の両家老は責任をとって切腹させる」というものである。

御連枝宮脇公の登城

喧々ごうごうの論議の最中に突然藩主御連枝の宮脇公が登城してきた。宮脇公は亀阜荘で悠々自適の生活を送っていた異端児である。

宮脇公はしばらく協議を聞いていたが、やがて手に持った中啓（儀式用の扇子）で、主戦論をとこなえる首謀者の肩をぱしりと打った。

「よく聞け。この中啓は畏くも朝廷から頂いたものぞ。どうしても官軍と一戦を交えるというなら、このわしの首を刎ねてからにしろ。それが出来ぬなら両家老に責任を取らせて、その首を差し出して恭順の意を表するのじゃ」

責任を取らせるということは、切腹させることである。藩主の命で出陣させておいて、両家老に切腹を申し渡すなど、いまさら言える義理ではない。

良きに計らえ

それまでだまって話を聞いていた藩主頼聡が、涙を流しながらはじめて口を開いた。

「余は城を出て五番町浄願寺に謹慎する。あとは良きに計らえ」

その晩、種は夫又右衛門にすがって泣いた。明日は夫を切腹の場に送り出さねばならない。

「あなた、私も死出の旅路のお供をさせていただきます。三途の川の岸边でお待ちください」

「馬鹿を申すな。お前が死んだら誰がわしの菩提を弔ってくれるのじゃ。お前は生きるのじゃ」

翌日、種は涙ながらに夫小河又右衛門を切腹の場、錦町の弘憲寺へ見送った。



高松市錦町 弘憲寺

迷いの太刀すじ

切腹の介錯人は、小野派一刀流剣術指南番、上原達蔵である。介錯人は切腹寸前にさっと首を切り落とすのが作法である。上原は刀を振りかぶった一瞬、とまどった。かりにも藩の家老の首である。このとまどいが太刀筋を狂わせた。刃はあごの骨に食い込み、首は落ちなかった。

「二の太刀で首を落としたとなると、高松藩の恥辱となる。首を箱に詰め、まわりを塩で埋め尽くし、傷が見えぬようにせよ」享年二十七歳の若さであった。

高松城の砲撃

高松城に土佐軍を主力とする官軍が侵攻してきたのは、正月二十日であった。大隊指令の板垣退助は、城門前の常磐橋（現在の高松三越あたり）前に二門の大砲を据えた。官軍の参謀が総司令の板垣退助に言った。「高松城は降伏の白旗を掲げております。このまま入城しましょう」板垣は顔を真っ赤にして参謀に言った。

「馬鹿なことをいうな。ここまで来て一発の弾も撃たずにすませると、全軍の士気に影響する。あくまで攻撃する」

「打て！」板垣の命令一下、高松城めがけて大砲の火が吹いた。

「だだーん、だだーん」大砲は空砲である。官軍は無条件降伏の高松城を無血占拠した。



高松城やぐら

無条件降伏

このとき種は、家老屋敷で夫、小河又右衛門の位牌の前に座っていた。突然がやがやと、雑兵が部屋に押し入ってきた。雑兵たちは部屋中かき回して、目ぼしい品物を奪い合っている。種はとっさに裏口から、着の身着のまま屋敷を飛び出した。

奥方種の最後

飛び出してはみたものの、行く当てがなかった。海沿いにひたすら東へとぼとぼと歩いた。歩きながら種は思った。「お前は生き延びて、おれの菩提を弔え」といった主人の言葉が、いまさらながら、むごいと思った。あのとき主人の後を追って、自刃していれば・・・。

「あなた、やはり私はお供します。先に行かないで、三途の川の岸辺で待っていてくださいね。」

これが高松藩家老、小河又右衛門の奥方、種の最後の姿であった。翌朝、屋島を昇る朝日に輝く東浜の海岸に、静かに種が漂っていた。



高松城東門

執筆者紹介

平井 忠志 (ひらい ただし)

「四国作家」同人
 愛媛県立農林専門学校農業土木科
 (現愛媛大学農学部) 卒業
 昭和 23 年 香川県農地部勤務
 開発水利課長・土地改良課長歴任
 昭和 61 年 香川用水土地改良区勤務
 平成 7 年 小説「花だんす」で香川菊池寛賞受賞
 平成 13 年 「さぬき水物語」出版
 平成 20 年 「さぬき水の歴史考」出版

会と催し

開催月日	会の名称	開催場所
7月12日	香川県農道整備事業連絡会	高松市
7月12日	防災重点農業用ため池保全管理説明会	三木町
7月13日	防災重点農業用ため池保全管理説明会	綾川町
7月13日	防災重点農業用ため池保全管理説明会	三木町
7月14日	防災重点農業用ため池保全管理説明会	直島町
7月14日	防災重点農業用ため池保全管理説明会	三豊市
7月16日	防災重点農業用ため池保全管理説明会	三豊市
7月16日	防災重点農業用ため池保全管理説明会	さぬき市
7月20日	本会第190回理事会	高松市
7月26日	香川県管理運営体制強化委員会管理専門指導委員会	高松市
7月27日	三豊地区土地改良協議会監事会、第1回理事会	観音寺市
7月27日	かがわ水土里ネット女性の会運営委員会	高松市
7月27日	防災重点農業用ため池保全管理説明会	三豊市
7月29日	仲多度土地改良事業推進協議会監事会、第1回理事会	善通寺市
7月29日	中国四国土地改良事業団体連合会協議会事務責任者会議 (Web)	高松市
7月29日	第2回全国水土里情報利活用促進会議幹事会 (Web)	高松市
7月30日	高松市土地改良区連合会監事会	高松市
8月5日	高松市土地改良区連合会第1回理事会	高松市
8月5日	中部地区土地改良協議会監事会、第1回理事会	高松市

令和3年度土地改良換地士資格試験のご案内

試験期日 令和3年11月14日(日)
試験地 岡山市
受験申込 令和3年8月16日(月)から
受付期間 令和3年10月4日(月)まで

◎受験願書及び「受験案内」等の配布

- ・ 配布期間：令和3年8月16日(月)～令和3年9月24日(金)
- ・ 配布場所：香川県土地改良事業団体連合会

問い合わせ先：香川県土地改良事業団体連合会 事業課 (087)832-7140 まで